

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191500099		
法人名	社会福祉法人 きずな会		
事業所名	グループホーム きずなⅡ ユニット1		
所在地	二海郡八雲町立岩55番地36		
自己評価作成日	平成24年2月23日	評価結果市町村受理日	平成24年5月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度、私どもグループホームきずなⅡでは、「地域とのつながり」を目標に取り組んでいます。
 地域とのつながりのために、町内会行事参加のほかに、夏祭りには今年度初めて露店を開き、利用者様や地域の方々に楽しんでいただいたり、そば打ちやお寿司の握りデモンストレーション、日帰り温泉ツアーを企画し地域の方々との交流の機会を増やすとともに、地域貢献の一環として、町内会館の雪下ろしボランティアを行なうなど、事業所自体が地域の一員として日常的に交流が持てるよう努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0191500099&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成24年3月14日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

道南に所在する当事業所は、同一敷地内に高齢者及び障がい者対応の事業所が隣接し、相互に協力し行政との連携を図りながら地域に向けた取り組みを実施している。海岸や河川に近い各種防災に対する意識が高く、定期的に消防機関の協力のもとで防災訓練を実施している。また、今年度から「防災会議」を開催し、事業所及び隣接する各種施設における防災訓練のあり方や、危険予測の検討を行うなど積極的な取り組みが見られる。介護サービス向上にむけて、事業計画会議や業務改善会議のなかで、職員の意見表出及び検討する組織体制が構築されている。介護計画では担当制を採用し、利用者の細かな変化を即時アセスメントにつなげ、定期的な評価を介護記録に貼付したり、ケアチェック表にて介護計画の実施状況を記録に残すなど、職員の意識を向上させることに工夫がみられる。管理者は地域との交流について、今年度の夏祭りの成功を受けて、新年度に更に発展させようと事業計画を策定している最中である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「穏やかで楽しい尊厳ある暮らし」「その人らしいあたりまえの暮らし」を基本理念に掲げ、日々実践できるよう職員全体で取り組んでいる。	事業所では職員採用時に研修を行い、理念について説明している。また月例の職員会議において職員間で理念の共有化に努め、理念達成に向けた話し合いの機会が設けられている。事業所玄関や事務室に理念は掲示されており、利用者及び来訪者などに周知を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事へ参加するとともに、町内の方を招いての夏祭りや食事会、日帰り温泉ツアー等を実施して地域の一員として交流していただけるよう努めている。	今年度から同一敷地内に所在する関連事業所と共同で夏祭りを開催し、利用者、家族、地域の方々と交流することができている。また利用者は町内会が主催する行事や行政が主催する行事に参加し、地域と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の行事に利用者様と積極的に参加することにより、地域の方から「交流していくうちに、認知症と特に意識しなくてもお付き合いができることがわかった」と話を聞くことができ、地域の方に理解されてきている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、事業所の行事や活動の状況を報告している。また、今年度は、消防職員にも参加していただき、火災・災害についてのアドバイスを頂いている。	運営推進会議には町役場保健福祉課職員、地域包括支援センター、町内会代表者、家族代表、事業所及び法人職員代表が参加し、事業所からの運営に関わる報告を中心に開催している。開催時期は、地域の特性(農繁期など)を考慮し推進会議委員の協議の上で開催することとしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者の利用開始依頼や運営上の相談、介護保険の更新など、常に連絡を取り、良好な関係を築けるよう努めている。	介護保険申請に関する申請代行や生活保護受給世帯には担当ケースワーカーの訪問があるなど、利用者の状況に合わせて日常的に行政機関と連携を図っている。事業所の運営に関しては、運営推進会議に役場職員が委員として出席するなど行政からの積極的な関りのもとで連携を図る体制が確立している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束廃止委員会の委員となり、月1回の委員会において、普段の取り組み等を報告・検討し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所では身体拘束廃止委員会を設立し、職員間で規定及びマニュアルに沿って話し合いが行われている。月例の職員会議において身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束廃止に向けた対策を検討し、事業所全体で法令順守に向け取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回の委員会を開催し、虐待防止についての話し合いを行ったり、外部研修に参加した職員が講師となり内部研修を実施し虐待について学ぶ機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度、管理者については10月に道南成年後見人講座に参加しており、制度を理解し必要性に応じ活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相手の立場に立って、十分に時間を掛けて説明ややり取りを行い、利用者や家族が不安や疑問点が無いように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や、遠方の家族へはインターネットやお便り等で利用者の暮らしぶりを報告し意見や要望を聞いている。	事業所では家族の来訪時にコミュニケーションを図り会話の中で意見を求める対応を行っている。一方、遠方に居住する家族へはホームページにて事業所の様子を伝えているが、定期的に利用者個人の状況の報告や個別の意見を伺う機会が少ない状況である。	家族には集団での生活の様子のほかに個別の様子を定期的に伝えることや、事業所のサービスに関する満足度を把握するためにアンケート調査を行うなどの方策を検討し、利用者及び家族からの意見表出が行えるような場面作りにも期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提言については、書面で提出してもらい、全法人職員が集まる勉強会にて事業計画を発表するとともに提出された案件についても検討し運営に反映させている	事業所では主として、月例の職員会議において事業所運営に関する意見を表出させる機会を設けている。そのほか年に2回程度(事業計画会議、業務改善会議)法人内の事業所職員が集まる会議において、職員提案を検討し、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度においては、労働時間の短縮・年間12日間の休日の増加・経験年数換算表、級別格付基準表、定期昇給の導入・扶養手当、住宅手当の創設・定期健康診断及びインフルエンザ予防接種の利用者負担等を取り入れ、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が法人内外における研修を受ける機会を作っている。また、年次計画を立て認知症実践者研修及び管理者研修を受講するとともに、内部研修においては八雲総合病院から講師を招き、介護技術向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八雲町包括支援係が開催している地域推進ケア会議に参加させていただき、各事業所とのネットワーク作りや勉強会、意見交換等の活動を通してサービスの質を向上させるよう取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談で利用者様の状況を把握し、ご家族様等と情報交換を行い、フェースシートの作成の際には、利用者様の悩みや要望、生活暦などを情報として記載し、慣れ親しんだ生活が出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時から利用時まで必要に応じ、御家族様から困っていること、不安なこと、要望などに随時対応できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用をする段階において、本人や家族等の情報をもとにアセスメントをとり、暫定的なケアプランを作成し、必要としているサービスが提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	買い物や花の手入れ、天候の良い日には散歩やドライブなど、家族的雰囲気の中でともに生活し、個々の必要に応じてケアをするとともに、喜怒哀楽を共有できる関係が築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者が不安や寂しさを訴えた場合や、そのシグナルを感じ取った時には、家族に面会をお願いしたり、自宅にて面会できる機会が作れるよう支援し、共に支えていく関係が築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	町内会が主催する敬老会への参加や、八雲町主催のふれあい広場に参加するなど、家族以外の人との交流を継続的に支援できるよう努めている。	事業所では町役場や地域の行事に利用者とともに参加するなど、関係継続の支援を行っている。また外出時には馴染みの商店や理髪店を利用し社会性の確保を行うほか、家族の来訪支援や宿泊など、利用者との関係が継続できるように体制を整備している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や生活層等を把握し、利用者様の仲を取り持ち、話題等を提供することで生活を楽しんでいただけるよう努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的に関わりを必要とされる利用者様や、ご家族様に対し相談や支援等の関係を継続している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、本人本位に沿った支援に努めている。また、行動や表情に変化があるときは、原因や解決方法を職員間で話し合ったり、必要に応じて家族から情報を得て支援している。	利用者個人の基本情報シートを作成し、本人の介護に対する意向や思いを介護計画をはじめとする関係書類に明示し、職員に周知し共有している。また職員は担当制にて利用者の細かな身体能力や精神状態の変化などに留意し、変化時には申し送りなどで伝達を行い、都度アセスメント変更にて対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェースシートにセンター方式の一部を取り入れ、これまでの生活歴や馴染みの暮らし方を本人や家族等から情報として提供していただき、サービスに活用できるよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で、一人ひとりの状態を観察するとともに、アセスメントチャート表や日課計画表等のツールを活用し、有する力等の現状の把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各利用者様の担当職員が作成したモニタリングを基に介護計画原案を作り、サービス担当者会議を実施し、関係者と協議しながら介護計画を作成している。	担当制を採用しており、担当者と計画作成者が6ヶ月単位で評価を行っている。介護計画は職員会議で周知され、家族来訪時などにカンファレンスを行い家族の同意のもと介護計画に沿ったサービスが提供されている。評価については「総括」として評価内容のコピーを都度個人記録に貼付し、日常介護サービスの中で職員が振り返りや介護計画を意識したサービス提供が行えるように工夫がみられる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画見直ししやすいように、2月より温度板、ケアチェック表を導入し、介護記録とともに記入して職員間で情報を共有できるよう努めている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会にこられた方に利用者様と一緒に昼食やおやつを食べていただいたり、利用者様やご家族様の状況に合わせ送迎などの面会の支援を行なっている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様に楽しんで生活していただけるよう、地元のラーメン店や寿司屋、そば職人への出張を依頼したり、近くの公園やパノラマ館への遠足・ドライブ等を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医が月2回往診している。また、八雲総合病院との連携体制も整えており、適切な医療を受けられるよう支援している。	看護師を配置し、温度板などでバイタル測定や内服確認、水分摂取や尿量測定の記録を残し受診の際に主治医に伝えている。利用者の希望により医療機関の選択が行え、送迎など必要に応じて事業所で支援している。また外来受診が身体能力により困難な場合は医療機関と連携を図り往診を受けられる体制を準備している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の日々の状態を報告・相談し適切な看護や受診が受けられるよう努めている。また、常勤看護師のほかに月2回程度パートタイムの看護師を配置し、より良いケアが出来るよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した際には、介護連絡表に詳細を記入し提出するとともに、必ず職員が担当職員に申し送りを行い情報交換や相談に勤めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には契約時、事業所としての終末期の方針を説明しているが、最後は医療機関を希望する家族が多いので、かかりつけ医とは常に情報を交換している。	利用者や家族の意向を確認しながら医療機関や主治医とも連携を図り、事業所に看護師を配置し終末期や重度化対応を行う体制を整備している。利用開始時にはこのことを家族に伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを活用し内部研修を行い急変や事故発生に備えている。また、来年度は八雲消防署に応急手当や初期対応の訓練を依頼し全法人職員が受講できるよう計画している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、隣接のショートステイと合同で消防署の協力のもと、月2回実施している。また、町内会の方に避難訓練を見学して頂き、防災会議にて今後の協力体制について打ち合わせを行っている。	防災計画を策定し、消防署と連携を図り各種災害を念頭においた防災訓練が定期的開催されている。また今年度より「防災会議」を発足させ、消防署と地域の代表者らが出席し災害に関する話し合いを行っている。災害時の備蓄食糧を用意したり、生活用水を確保するなど、積極的な取り組みが見受けられる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今年度10月・11月に法人全職員が参加する全職員研修会を開催し言葉掛けやプライバシーについて勉強する機会をもうけ、実践に活かしている。	法人全体でプライバシーの確保についての研修を実施しているが、訪問調査時に一部分、利用者への声かけなどで個人の尊重や尊厳に配慮が必要ではないかと見受けられる場面が窺えた。	個人の尊重や尊厳についての研修受講を活かし、排泄誘導など個人の尊厳に大きく関わる事項については羞恥心に配慮した対応を検討し、マニュアルなどの整備・見直しを行い職員間で共有するなど、更なるサービスの向上に向けた取り組みを期待したい。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の意思や希望が表現できるコミュニケーション等を行なうとともに、表情、行動に配慮し、自己決定が出来るよう働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業計画に「出来ることは自分でしていただく」を目標として掲げ、職員本位ではなく、出来ること・出来るようなことを発見し、利用者様のペースに合わせた支援できるよう努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常的に個々に合った身だしなみや、おしゃれが出来るよう支援し、本人の希望があれば化粧品なども購入している。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が献立を作成し、食材を発注しているが、利用者と一緒に買い物に行くこともある。また、野菜の皮むきや食器拭きなどは、職員と一緒に楽しみながら行えるよう支援している。	利用者の嚥下能力に応じて、粥食や刻み食など食事形態の変更や、食事が減少している利用者に医師の指示のもとで栄養補助食品を提供するなどの支援を行っている。また献立は利用者の意見や要望を聞き、季節の食材を使用し可能な限り対応している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事の摂取状況や身体状況に合わせて調理の盛り付けを行っている。また、食事量・水分量のチェックを行い把握している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、職員が必ず声を掛けて見守りをするとともに、介助が必要な利用者様については出来ない部分を介助しながら口腔内の清潔保持に努めている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入所以前、おむつで排泄を行っていた利用者でも、尿意を訴えることが出来ることに気づき、トイレ誘導を行なうことでオムツを使用しない生活が出来たという事例もあり、自立に向けた支援が出来るよう努力している。	排泄の自立に向けた取り組みを行っており、利用開始後におむつが外れた事例も数件見られる。温度板経過記録には排泄の回数についての記録があり、この記録に基づいて排泄誘導及び下剤の調整を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材には、必ず野菜・果物が入るように心がけ、運動に関しては日中の活動を促している。また、申し送りや温度板を活用し、職員が排便の状況を把握して便秘を予防できるように取り組んでいる。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそって支援をしている	昨年、シャワー浴の利用者が多かったため、今年度については、地域の方の協力を得て、手作りの木製バスボードを作成していただき、全ての利用者が浴槽に入り、入浴を楽しんでいただけるように取り組んでいる。	週2回(月、木)を入浴日と定めて入浴支援を行っている。入浴誘導を工夫しても入浴を拒否された場合や、体調不良により入浴ができない場合には、翌日に入浴を行ったり、清拭を行うなど保清の体制を整備している。昨年、地域の方の協力の下でバスボードを作成し、利用者にとって安定した入浴ができるように設備の整備を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価					
			実施状況			実施状況			次のステップに向けて期待したい内容		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの利用者様に合わせて無理な働きかけはせず、常に安眠や休息が取れるよう配慮している。								
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様一人ひとりの使用している薬の目的や副作用、用法用量がわかるよう、薬の説明書をカルテに添付するとともに、薬剤師・看護師の指導の下服薬介助を行っている。								
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様が日々の生活の中で生きがいや楽しみを持てるよう、生活歴を考慮し、出来ることを職員と一緒にに行い支援している。								
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周辺の遊歩道の散歩や買い物、近くの公園への花見や山車行列の見学などを行っており、今年度は地域の方の協力を得て、日帰りの温泉ツアーも実施することができた。			事業所周辺の散歩や花壇へは日常的に外出し、事業所の食材を購入する際にスーパーへ行くことなども可能である。また事業所では日常生活の活性化を目的として、年間の事業計画に沿って馴染みの場所や温泉などに行く行事を開催し、外出支援を行っている。					
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と協議の上、自己管理の金銭に関しては、五千円程度までとしており、その中で外出の際の買い物、施設内での自動販売機の使用や電話など、お金を所持したり使えるように支援している。								
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも手紙が出せるよう準備し、投函まで支援している。電話は自分でかけられない人に関しては、職員が希望の相手に対しダイヤルして、受話器を渡して支援している。								
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は、バリアフリーで利用しやすい状況になっている。また、装飾も季節感や行事等に合わせた飾り付けして居心地よく過ごせるよう配慮している。			事業所内は平屋造りで広い空間があり、バリアフリーであることが大きな特徴である。トイレや浴室は車椅子使用でもゆとりがみられ、自然光が差し込む食堂兼リビングは明るく、暖かく利用者にとってなごみやすい環境に整備されている。					
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各ホール内に応接セットを配置し、利用者同士で自由に過ごせるよう工夫している。								

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはクローゼットとベッドを備え付けている。また、利用者様は使い慣れた家具や日用品などを自由に持ち込んでいただき、家庭的な環境で過ごせるよう配慮している。	居室はベッドや備え付けのクローゼットを主体として環境が整備されているが、たんすや鏡台、物入れや仏壇など使い慣れた品々が持ち込まれ、落ち着いた空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	「出来ること」や「わかること」を活かす支援として、個々に応じて買い物・食器拭き・洗濯物干しやたたみ等声を掛け見守りしながら一緒に行い、自立した生活を送れるよう工夫している。		